

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	子ども未来サポートルームEL1 (児童発達支援)					公表日	2026年 3月 16日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		利用人数に対して十分なスペースを確保しており、安全に活動できる環境であると考えています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		利用定員やこどもの状態に応じて職員を配置しており、適切な支援が行える体制を整えていると考えています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日の清掃、消毒を行っています。また運動はプレイルーム、個別訓練用の個室等活動に合わせた居室があります。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6					
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表を通じて、保護者等のご意見やご意向を把握する機会を設けており、いただいた内容をもとに業務の見直しや改善につなげています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎年業務についての意見をアンケートにて把握する機会を設けています。また、その都度業務に関して意見がある際は、会議にて検討し改善につなげています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		会議時には外部の第三者の方に参加しており、評価や意見をいただき業務改善につなげることができるように体制を整えています。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		事業所内研修の開催や外部研修を積極的に受講できる機会を確保し、資質向上に努めています。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページにて公表しています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員間で共有できるように、利用児ファイルにて療育に入る前に各々確認し、支援にあたるようにしています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		子どもの実際の行動を把握・観察し、評価(インフォーマルなアセスメント)を行い日常的な支援の工夫に繋げています。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1	ガイドラインに沿って計画に反映させています。	ガイドラインの周知が行えていないため、周知する体制を整えます。		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	各担当が内容等を立案後に、会議や運動デモにて、スタッフ全員が意見を出し合い検討を行っています。また月1回の会議内にて、療育についてなど話し合いを行う機会を設けています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		活動プログラムは、運動療育、個別療育、生活課題を行う時間と決まっていますが、内容を固定化しないように毎月検討しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		小集団の運動療育と、個別療育を組み合わせる支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝朝礼をおこない、療育内容の確認やスケジュール確認をおこなっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	支援終了後は、ミーティングとしての時間は設けていませんが、スタッフ間で本日の振り返りや、困り事、支援内容の共有が行われています。また、特記事項は共有システムにて記録を残してスタッフ全員が把握できるようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		共有システムにて記録を取るよう徹底しています。それにより、全スタッフが情報をしっかり確認し支援や改善に繋げるよう努力しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		関係機関との会議や訪問等は、できるだけ児童発達管理責任者とケース担当者が出席するようにしています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		必要に応じて、幼稚園や学校等に訪問に伺い、情報共有を行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		小学校就学時には、利用児の情報共有シートを作成し、保護者や学校に提供しています。また、依頼があれば学校に出向き、相互理解のための話し合いを設けています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2	センターが開催する研修や勉強会に積極的に参加しています。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	2時間療育であることと、室内活動がメインのため、あまり機会はありません。屋外イベントで行く公共施設での関わりは稀にあります。		

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		保護者の方がお迎えに来られた際に、ご家庭での様子などを確認しています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		保護者会にて、ABA応用行動分析の内容や対応方法などの勉強会を実施しています。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学時や契約時にご説明を行っています。また、保護者の方が分かりやすいような説明を心がけています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		定期的に、意向の確認、聞き取りを行っています。アセスメントシートにもご記入いただき、確認を行っています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		ご説明をする際には、必ず対面での面談を行い、計画書を示しながら説明を行っています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		こちらから声掛けするなどし、悩みや相談がしやすい環境作りを行っています。相談の申し出がある場合は、すぐに応じることができるよう心がけています。また、療育見学の声掛けを積極的に行い、その際に助言等を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		今年度は、勉強会として講義を行い、また保護者同士の交流の機会を設けるための保護者会を全3回行います。きょうだい同士で参加できるイベントも行っています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情解決担当者、第三者委員会を設置し、相談や申し入れがあった場合には、迅速かつ適切に対応できるよう体制を整えています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		SNS・HP・ブログを活用し、定期的に発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の取扱いについては、職員間で定期的に確認を行い、守秘義務や情報管理の重要性について周知徹底しています。個人情報記載された書類は施錠可能な書庫に保管し、職員以外が閲覧できないよう管理しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		こどもの特性や理解度に応じて、視覚的支援や分かりやすい言葉を用いるなど、意思の疎通が円滑に行えるよう配慮しています。また、保護者さまには丁寧な説明を心がけ、必要に応じて書面等を用いて情報共有を行っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		現在は訓練を主とした室内療育が中心であるため、地域住民を招待する行事は行っていませんが、地域の公園などに外出することはあります。	今後は生活能力の向上や般化を目的として、地域の公園等への外出活動を必要に応じて取り入れ、地域との関わりを意識しながら、無理のない範囲で地域に開かれた事業運営を検討していきます。
非	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルについては、契約時（保護者へ）や入職時（スタッフへ）に周知を行っています。年間スケジュールを立て、研修や訓練を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に避難訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時やアセスメント時に聞き取りを行い、ケースファイルに記載し、全スタッフに周知を行っています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	食事提供をおこなっていないため、医師の指示書に基づく対応は行っていませんが、アセスメント時に、アレルギーなどの聞き取りを行い把握しています。	

常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全管理、点検チェックを毎日実施し、安全に活動できるように努めています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットが発生した際には、その都度内容を共有し、再発防止に向けた対応策を検討したうえで、速やかにスタッフへ周知しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止のため、事業所内での研修実施や外部研修への積極的な参加を行い、職員一人ひとりの意識向上と適切な支援に努めています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		現在、身体拘束に該当する児童はいません。該当する場合には、組織的に判断を行い、事前に保護者へ説明し同意を得たうえで、個別支援計画に記載します。また、その都度、適切な対応や対策を検討しています。	